

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
1	星名大輔	1. クマ対策について 新潟県では、県内でのクマによる人身被害が多発していることを受けて、クマ出没特別警報を発令しました。さらに、市内の住宅地付近でもクマの出没が増えています。 国は、鳥獣保護管理法を改正し、クマが住宅地に出没した場合でも、市の判断により銃器を使用した対応を可能にする緊急銃猟制度を新たに設けました。 そこで、市長からクマ対策の現状と今後について、教育長からは学校における対策の現状と今後について伺います。	市 長 教育長
2	市川直子	1. 市内の小中学校に“学校司書”を置くことについて 子どもたちの読書習慣の二極化や、学力の伸び悩みが気になる声が多く寄せられています。また、共働き家庭の増加で家庭での学習サポートが難しくなる一方、学校現場でも先生方が多忙化しており、図書館の運営が十分にできない状況が聞こえてきます。そこで、市内にまず1人「学校司書」を配置し、複数校を巡回してサポートする取り組みを始めるべきではないかと考えました。 以上を踏まえ、以下の点について教育長のご見解を伺います。 (1) 市内小中学校の図書館運営の現状についてお聞かせください。 (2) 学校司書の配置の必要性についてお聞かせください。 (3) 市全体で1名から始める「モデル配置」についてどのようにお考えでしょうか。 以上、ご答弁をよろしくお願い致します。	教育長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
3	滝沢 繁	1. 県立松代病院について 新潟県は、松代病院の無床診療所化の議案を12月議会に提案しようとしています。松代、松之山の住民の7割を含む16,310筆の署名が県に提出されています。 地域医療構想会議では、厚労省の言う「地域住民が望む医療へのかかり方等を聴取しニーズを把握する」ことになっていますがありませんでした。また、市長答弁でも、「松代病院があることでこの地域で住むことが出来る安心感がある」、「県が病院経営強化プランを半年で反故にしたことを県の経営責任者にしっかりと質さなければならない」と発言しましたが、地域医療構想調整会議では、市としてのこうした事情は発言されませんでした。 この会議の中で、4月1日の移行は「住民が不安を抱えている」。こうした声もあり、県課長は「段階的に対応した方がいいのかどうかというところも含めて検討させていただきたい」と答え、布施議長は「松代病院及び十日町病院は地域包括システム向上に資するこの地域の新しいビジョンを住民に示す」、「住民参加のプロセスを形成していただきたい」と述べました。 未だに無床の診療所になることへの体制、福祉施設との連携などは決まっていません、看取りについても同様です。魚沼医療圏の病床数は1,168床になります。県が示す1,328床を大幅に下回ります。第8次医療計画が示す基準病床数1,445に対し大幅後退です。条例改正は時期尚早と考えます。 松代、松之山の住民は入院機能のある病院を残してほしいと切に願っています。代表である市長としてどの様にお考えか伺います。	市 長
		2. 雪問題を考える。 降雪期前に、大雪になれば良いと思うところです。とりわけ高齢者が多い当地域におきましては担い手不足をはじめ、解決しなければならない課題が多くあるのも当然のことと思います。雪対策支援はここで暮らす人たちに一筋の光明とも思います。 しかし、離村などで1件になった家、除雪の人員確保なども緊急課題です。要援護世帯除排雪事業等、除雪を引き受ける人の確保、融雪屋根に対する灯油支援の考え方など、今冬の雪対策について伺います。 また、道路除雪に対するオペレーター不足の課題ですが、一人乗務の考え方など、この先にどういう展望を持って望むのか伺います。	市 長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
4	山家悠平	1. 笹山縄文広場整備事業について 本事業は、本市の縄文文化を発信する重要なプロジェクトであり、その意義と可能性は十分に認識しております。一方で、人口減少・高齢化が進む厳しい財政環境下において、大規模施設の整備を進めるにあたっては、以下の点について特に慎重な検討が必要と考えます。 (1) 事業の意義と目的について ① 市長マニフェストにも記載されていますが、このプロジェクトに市長がどのような思いで取り組んでおられるのか、その意義や目的についてお聞かせください。 (2) 建設費の見込みと財源構成について ① 現時点での総事業費の見込み額と、その財源構成（国庫補助金、地方債、一般財源など）の内訳を具体的にお示してください。 (3) 運営体制、年間運営コストと収支計画について ① 完成後の施設の運営体制は、市の直営、指定管理、あるいはその他の形態のいずれを想定しているのかお聞かせください。 ② 常勤職員の配置人数、人件費、外部委託費を含む年間運営コストの見積もりを具体的にお示してください。 (4) 市民の利用と地域活動との連携について ① 本施設が観光客だけでなく、これまで広場を利用してきた市民が今後も継続して利用できる場となるための設計上の工夫や、具体的な利用促進策をどのように検討しているかお聞かせください。 (5) 来訪者数の見込みと広報・誘客戦略について ① 年間来訪者数の目標値とその算出根拠（類似施設の実績データ、市場調査など）を具体的にお示してください。 (6) 市民の意見反映と今後の市民参加の機会について ① 整備計画の策定プロセスにおいて、隣接している陸上競技場や笹山野球場の利用者を含め、市民の声をどのように把握し、設計や運営計画に反映させていくのか、その具体的な仕組みとプロセスをお示してください。 (7) 計画の柔軟性・見直し可能性について ① 現段階の施設規模・機能・運営形態について、市民ニーズや財政・社会情勢の変化により必要が生じた場合、どのように対応されるかお聞かせください。	市 長 教育長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
5	大嶋由紀子	1. 不登校児童生徒の学びを保障するためのネット出席制度について 全国的に不登校の児童生徒数は過去最多となり、文部科学省は令和 5 年以降、「ICTを活用した学習参加を出席扱いにできる」という制度的整理を示しました。 子どもが学校に行けない背景には心の不調、対人関係、家庭環境等多様な理由があります。特に雪国である十日町市では、通学の負担や地域環境も無視出来ません。 そこで、以下について伺います。 (1) 十日町市の現状について、ネット出席制度により出席扱いとする運用を実施している学校があるのか。 (2) 不登校支援、学びの保障としての効果をどのように考えられるか見解を伺います。	教育長
		2. 教員の負担軽減と学びの質向上のための2学期制導入について 現在、本市の小中学校では3学期制を採用しており、通知表の作成が年3回行われています。 全国では2学期制へ移行する自治体が増えつつあり、通知表が年2回になることで様々な効果が期待されます。 本市として、子どもたちの学びの質を高め、教員が本来の教育活動に専念できる環境を整えるため、2学期制の導入について検討する必要があると考えます。 2学期制の導入についてのお考えはありますか。	教育長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
6	樋口富行	1. 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について 今、県内で話題になっている原発再稼働です。「原発再稼働の是非を県民投票で」の署名数は、十日町地域は県内でも 2 番目の署名が集まり非常に関心度の高い地域で、市長の発言や行動に注目しています。 市民は、11月14日の原発30km内の 7 市町の首長と県知事との意見交換の際の市長の発言に注目していましたが、報道に載った発言は、長岡市長の「時期尚早」だけでした。 県知事は、県民の意見を聞いてと言っていますが、県民意識調査では「再稼働の条件は現状で整っていると思わない」人が過半数を占めています。知事は、何をもって県民の意見と考えているのでしょうか。 この地域の冬期間は、偏西風に乗って雪雲が発生し大雪になります。もし、この時期に原発事故が発生した場合は、この地域には、雪と共に放射能も積もり、長期間にわたり人々の生活に甚大な影響を及ぼします。 (1) 知事との意見交換で、原発再稼働について、市長の思いと市民の思いをどの様に伝えたのか、お聞かせください。	市 長
		2. 市内温泉施設の利用料について 旧中里村では、地域の憩いの場として、「ミオンなかさと」や「ゆくら妻有」を整備しました。他の地域も同様だと思います。 しかし、近年の利用料金の値上げや各種割引制度の廃止によって、地域の人々、特に高齢者の方々から「利用しにくくなった」、「生活が大変で温泉に行くのを我慢している」などの声を多く聞くようになりました。 高齢者が憩いの場を失い、地域、人々との交流が減ることは、地域にとっても高齢者の健康保持の面からも決して好ましいこととは思いません。 温泉施設を観光施設としてのみ捉えることなく、福祉的な観点からも捉え、利用料金の値下げや各種優遇策があってもよいのではと考えます。 (1) 温泉施設の福祉的観点から利用料金の値下げ、高齢者等への優遇策はできないのか、お伺いします。	市 長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
7	野沢浩平	1. 避難所としての学校体育館等における空調設備設置と国の支援活用について 学校体育館は、子供たちの教育の場であり、災害時には地域の避難所としても重要な役割を担います。空調設備の整備を加速させ、児童生徒に加えて、避難者も安心して過ごせるようにすることが大切と考えます。近年は、全国的に猛暑日が増えており、学校体育館に空調設備を整備する重要性が高まっています。また、激甚化・頻発化する自然災害において、避難所となる体育館に空調設備が整備されていないことなどから、被災後の避難生活の疲労やストレスで亡くなる「災害関連死」の割合も、残念ながら増加しています。このような問題意識から、安全・安心な教育環境と避難所の環境整備について大幅な改善が求められています。国は、令和6年度より支援策として、文部科学省「空調設備整備臨時特例交付金」を創設し、体育館への空調設備設置及びその関連工事を支援しています。補助率は1/2で、補助対象額は400万から7,000万円。さらに、地方債を活用することで自治体負担の大幅な軽減が可能です。また、令和7年度からは体育館空調の光熱費に対して、普通交付税措置も新設され、設置後の運用も支援されています。十日町市においても、学校施設長寿命化計画や武道館改修工事の事例があり、部分的に空調設備工事は進められていますが、体育館全体を避難所として快適に利用できる環境にはまだ十分ではありません。そこで、以下の点について質問します。 (1) 当市における指定避難所の空調設備設置状況について (2) 当市は、避難所としての学校体育館に対し、国の空調設備整備臨時特例交付金を活用して、体育館全体の空調設備設置を計画する考えはあるか。 (3) 体育館に空調設備を設置する際、断熱改修との組み合わせにより、冷暖房効率を高め光熱費負担を軽減する計画はあるか。 (4) 自主避難所として利用される集会所等への空調設備設置について支援の計画はあるか。	市 長

令和 7 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
8	富井春美	1. 県立十日町病院の医療充実について 昨年4月から県立十日町病院の分娩機能が休止になり、この地域では、唯一分娩機能を持つ「たかき医院」に市民の期待が寄せられています。ところが、9月議会で、たかき医院の分娩機能に関わって、市長は県立十日町病院の分娩再開を県に求めることを話されました。 その後、「たかき医院が来年3月末で分娩を終了すること」が11月22日、新潟日報により報道されました。この地域で、分娩機能がなくなることへの不安の声が多く上がっています。 出産は出産を迎えるまでも出産時もいつ異常が起こるか予測できないと言われてしています。また、出産は「近くで安心して出産できること」や、どのような状況になっても対応できる体制が大切な条件とも言われています。この点から十日町市に分娩機能があることは重要であると言わざるを得ません。県立十日町病院は地域中核病院であり、その役割は重要であると考えます。 今後の十日町市の周産期医療についてどのように考えているか、お伺いします。 さらに、県立十日町病院の機能を透析、精神の診療に拡大強化すると報道されています。これらを十日町病院に設置するにあたってどのような構想になっているのか、お伺いします。	市 長
		2. 新たな中学校統合計画の進め方について 教育委員会は、あり方検討委員会の「十日町市立中学校のあり方についての提言」の「10年後に2～3校、30年後は1校」の提言を、13の地域自治組織の役員等による研究会に提示し、地域自治組織を組み合わせた「協議ブロック」を設置して統合に向けた検討を進める計画でした。しかし、「協議ブロック」の設置ができず、全地域で検討する会「十日町“みんなの学校”プロジェクト」が設けられました。構成員は、13の地域自治組織から推薦された3人ずつと学校関係者、学識経験者の計50人です。現在、“みんなの学校”プロジェクトでの検討が進められています。 そこで伺います。学区再編協議研究会などの学区再編の進め方を踏まえて、今後どのような進め方になるか、伺います。	教育長